

第 92 号 2015. 5. 31

社会福祉法人 愛光園

知多地域障害者生活支援センター らいふ

誰もが慣れ親しんだ地域の中で
安らいだ暮らしが続けられるために

知多の暮らしを結ぶ

知多の暮らしを結ぶ

発行責任者： センター長 葛間 雅由
〒470-2102

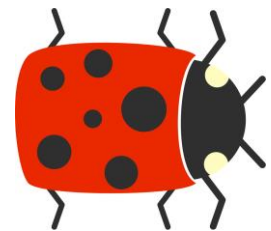
知多郡東浦町大字緒川字寿久茂 129

TEL 0562-34-6609 FAX 0562-34-6618

E-Mail life@aikouen.jpURL <http://www15.ocn.ne.jp/~life1997/>

相談支援の立場から

「意思決定支援」を考えてみた



平成 27 年度となり、これからの福祉サービスの利用については原則としてサービス等利用計画の作成が必要となりました。ただし、移動支援などの地域生活支援事業だけの利用の場合は対象となりませんし、セルフプランとしてご自分で計画を立てることも可能です。相談支援専門員がサービス等利用計画案を作成するためには、ご本人の生活や障がいの状態などの基本的情報を伺ったり、これからの生活へのご希望や施設やホームヘルプなどの利用の意向を教えてくださいが必要です。この計画の主体はサービスを利用するご本人ですから、ご本人の希望や意向に導かれたものになっている筈です。

障がい福祉サービスの事業やその利用についての基本的なルールは障害者総合支援法に書かれています。障害者総合支援法の 42 条や 51 条の 22 には意思決定支援に配慮した上で障がい当事者の立場に立ってサービスを提供する事となっています。この意思決定支援への配慮については平成 25 年の施行から 3 年後の平成 28 年 4 月に見直し項目の一つとされています。残念ながら、この意思決定支援への配慮については曖昧模糊と

した言葉のまま、具体的な内容や方法について議論されてこなかった様に私には思えます。

自己選択・自己決定のために、そこに働く意思はどんなに重い障がいがあっても、適切な支援が有ればその人なりの表現ができる事を、障がい福祉に携わる私たちは知っています。計画作成に人が居ない、時間が足りない、選べるだけのサービスが無い。それにお金が無いを加えて無い無いくしになってしまいますが、それでも当事者の意思決定をどのように支援していくか。この事を来年の 4 月までに考えて実践しないと、見直しもなにもできません。私が携わっている、サービス等利用計画の作成について振り返ってみても、ご本人が自分で決める、ご本人の了解を得るための説明や理解いただくための体験、そして選ぶ事ができる選択肢の提供がどれ程できているかは、とても心細いものがあります。サービスの計画内容について、いま有るサービスをそのまま当てはめてきませんでしたか？それで良いと了解したのは誰でしたか？この問いかけから振り返っていき

(葛間)

障害児等療育支援事業

「今年度も知多圏域の障害児等療育支援事業をよろしくお願い致します！」

昨年度は、多くの関係機関の方、ご家族の方には大変お世話になり、ありがとうございました。みなさまのご協力があり、知多圏域の障害児等療育支援事業を進めることができました。

今年度から担当者が変わり、植田が本事業を進めることになりました。まだわからないことも多々ありますが、関係機関のみなさまからご指導を賜り、本事業を進めてまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願ひいたします。

昨年度と同様に知多圏域で保育園、幼稚園、療育施設等へ大学や病院の先生の派遣、または保護者の方々のグループワーク等の支援を行う予定です。私の知多圏域における情勢等の知識がまだ不十分ではありますが、勉強しながら昨年度と同様に知多圏域に貢献できるよう療育支援事業を進めていきたいと思っています。

今年度も事業の中心になるのが療育施設の立ち上げの支援になります。南知多町のどんぐり園、美浜町のわかば園、常滑市ちよがおか移行支援（運営主体が市から社会福祉法人へ）、阿久比町ほし組フォローアップ支援が今年度の計画の主な柱となります。

様々な先生方のご協力を得ながら、これらの市町に住んでいる子どもとその保護者、施設の支援者の方々のニーズを探り、検討を行い、フォローアップを行っていききたいと考えています。

また、障害児等療育支援事業が知多圏域の療育支援にとって必要な事業であるという位置づけを崩さないように、どのような体制が必要か、地域の方々には何を考えていってもらいとよいか等、今年度の事業を進めながら、その必要性を考えていききたいと思っています。

さて私が担当になり、初めての知多圏域療育支援研修会が武豊町の中央公民館でありました。愛知県コロニーの療育支援課の野崎先生に来ていただきました。私のドタバタがありましたが、講演は無事終えることができました。講演の題名は「発達障がいの理解と支援」でした。内容は発達障がいの理解や具体的な支援の方法、保護者支援に関することでした。子どもをほめること、親に自信をつけてもらうことが特に大切なことだと改めて考えさせられるものでした。講演後に参加していただいた保育士の方々から感想をいただきました。

“子どもも保護者もほめられたらうれしい！改めて大切なことに気づかされました。”“話を聞いて自分の関わりを振り返りながら保育をしていこうと思いました。”等がありました。

保育士の方々は“これからの実践に生かそう”という前向きな感想がたくさんあり、プロフェッショナルな姿勢を強く感じさせられるものばかりでした。さすがです。

また自分自身としては講師の方と現場をつなげることが本事業の役割のひとつであることを実感することができました。今後も知多圏域の中にあるニーズから講師の方々と現場をつなげ、最終的には知多圏域の子ども、その保護者、支援者の方々の支援を行っていききたいと感じました。

失敗を修正し、経験を積み重ね、微力ではありますが、知多圏域のために障害児等療育支援事業を進めていききたいと思います。どうぞよろしくお願ひ致します！

(植田)



障がい者就業・生活支援センターワーク

平成 26 年度はワークにとって 10 年目という節目を迎えた印象深い年になりました。

【スタッフの新編成】就業支援担当者と生活支援担当者を新任、11 月には職場定着支援担当者 1 名を労働局の加配で配置することができました。新人スタッフの 3 名は、今まで相談支援業務の経験はなく、先輩スタッフとペアになり業務に勤めました。まだまだ慣れない業務の大変さと、それからこの仕事の意義や楽しさを学んでいる最中です。

【平成 26 年度の事業実績】

(H26 年 4 月 1 日～H27 年 3 月 31 日)

相談支援事業実績)

登録者数	身体	58 名
	知的	300 名
	精神	124 名
	他	23 名
	合計	505 名
相談支援件数		4337 件
訓練件数		4 件
実習件数		40 件
就職件数		60 件
職場訪問件数		384 件
JC 支援件数		191 件
離職件数		20 件

ワーク登録者数は 505 名で、内訳でみると約 6 割が在職者、残り 4 割が求職者となります。平成 26 年度は【職業訓練・実習のあっせん】44 件、【就職】60 件【相談支援】4337 件（うち支援対象者への相談支援は 3770 件）という実績でした。

【ジョブコーチ支援】191 件 【職場訪問】384 件を通し、職場定着支援を行ってきましたが、離職者は 20 名ありました。離職理由としては、就

職段階での仕事のマッチングミスや職場環境や人間関係の理由等があげられますが、中にはご本人が望まれるキャリアアップや収入増加を目指した転職によるものもありました。

【圏域の就労事情】この圏域でも就労継続支援 A 型事業所の開設が増えてきて、就職先として選択される方も多くなっています。様々な働き方の選択肢が増えるのは喜ばしいことですが、一般就労で働ける可能性を持たれている方であれば、就労移行支援事業所や就労継続支援 B 型事業所での就労訓練利用を含め、就労生活の方向性をハローワーク、福祉課や相談支援事業所、病院等の関係機関とも連携し一緒に考えたいと思います。

雇用主側からの依頼に応え、求人募集の情報発信や見学会、就労支援のしくみについての講話を行いました。またハローワークの実習制度を積極的に活用し（今年度より、当センターで実習保険の仕組みを整えました）、就労体験や雇用に至る事例も増えました。

【障がい者支援について】

精神障がい・発達障がい・高次脳機能障がいの方の相談支援は近年、増加傾向ですが、平成 26 年度は障がい者手帳の有無に関わらず、普通学校（特別支援学級）、専門学校、大学等を卒業する方や家族から求職や職場定着に関する相談支援が目立ちました。また就業面だけでなく生活面（金銭管理、通院同行、家庭との連絡調整等）の相談支援ケースも多かったです。

【圏域の就労支援関係機関との連携について】

就労移行支援事業所だけでなく、就労継続支援 B 型事業所からの利用者が雇用に至る件数が増えました。しかし、就労継続支援 B 型事業所の職員から、障がい者雇用制度や仕組みについて、あるいは雇用主、ワークとの連携についての問い合わせも多く寄せられています。

平成 26 年度の取組みのひとつとして、知多圏域就労支援担当者連絡会（あしすと）を年 4 回開催します。まだまだ本軌道に乗ったとは言えませんが、知多圏域における就労支援の課題を把握し、

各支援事業所の就労支援担当で「支援機関同士の連携」「就労支援力向上」を目指して今後も活動を続けていく予定です。

11年目を迎えたワークは、今年度も様々な支援機関と一緒に「障がい者が働き続け、生活していく」ことを支援していきます。みなさんのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

(田中)



基調講演をいただいた、又村あおいさん

このフォーラムは、この地域の障がい者支援ネットワーク会議の普及啓発活動として毎年開催されており、障害福祉関係者はじめ、地域の方々に毎年多数お越しいただいております。プログラムの前半は基調講演、そして後半は各市町部会の活動報告となっております。今年の基調講演は、内閣府にて障害者施策推進のご担当をされていらっしゃる、又村あおいさんにお越しいただきました。「この町でみんなが安心して暮らすには ～障害者権利条約からひも解く相談支援・意思決定支援～」と題して、「障害者権利条約」の解説からはじまり、「虐待防止」「差別解消」「意思決定支援」について、とてもわかりやすい言葉でお話いただきました。

各市町部会からの報告は、東海市部会からは就労支援について、当事者参加のワークショップ、会社見学会の取り組みを、知多市部会からは障害福祉関係者、当事者団体からなる構成メンバーが市内の福祉施設を見学、各方面から意見を出し合いニーズを抽出し、福祉の人材育成について検討した取り組みを、阿久比町部会からは社会資源マップの作成、気軽に集える居場所“サテライトあんど”開催の取り組みを、東浦町部会からは就労支援について、地域の企業にご協力いただいた“職場体験実習”の取り組みを発表して下さいました（それぞれの市町部会、その他活動は資料にて報告）。各部会の発表者のみなさんは、熱のこ



東海市・知多市・阿久比町・東浦町 障がい者総合支援センター

知多2市2町

(東海市・知多市・阿久比町・東浦町)

障がい者支援ネットワークフォーラム開催

平成27年度が既に始まり、みなさま慌ただし毎日を送っていらっしゃるかと思いますが、今回は、平成26年度「知多2市2町 障がい者支援ネットワーク会議（自立支援協議会）」のまとめであり、去る2月21日（土）知多市勤労文化会館にて行われました、「障がい者支援ネットワークフォーラム」についてご報告をさせていただきます。

もったすばらしい発表をして下さいました。

知多2市2町“障がい者支援ネットワーク会議”は当事者参加が基本、まだまだ至らぬところがありますが、試行錯誤の結果、アイデアとパワーを持った人材がプロジェクトチームを結成し、まずは実現可能な課題から取り組んで、実現したら次の課題へと取り組んでいる傾向がありますが、この部会運営の方法にゲストの又村さんは、“やれそうな課題を小さな単位にして始める。この柔軟な部会の持ち方は先駆的な良い方法、あまりにも大きくて実現困難な課題に取り組むのは、モチベーション維持がたいへんなので、とても良いと思います。”と評価していただきました。

最後に今井会長が、「人材不足の課題は福祉業界に限った事ではありません。まずは“障害福祉”というものを地域の人に知っていただく事、関わっていただく事が必要。この町の“障がい者支援ネットワーク会議”の取り組みを、もっと地域の方々知っていただきましょう。来年は、福祉に関係がないお隣の家の人も誘って来て下さいね。」と締めくくっていただきました。

さて、平成27年度の“障がい者支援ネットワークフォーラム”は、平成28年2月27日（土）東海市勤労センターにて開催予定です。今年度はテレビでおなじみの方の基調講演が既に決まっております。5月13日には、第1回の2市2町全体会が開催、各市町部会の取り組みも既に始まっております。地域の方へ素敵な取り組みの報告ができるように、事務局として今年も努力させていただきます。どうぞご期待ください。

（増田）



地域居住サポートセンター

先号の『ちたくら』に準備が進行中であると記載いたしました、2グループホームの移設は、制度の改正も重なってかなり難航いたしました。何とかこの4月上旬に変更の手続きと入居者の皆さんの転居を完了いたしました。

この変更（移設）に伴い、愛光園地域居住サポートセンターが管轄するグループホーム数は12ホームと変わりありませんが、定員は51名から6名増の57名となります。

移設1つ目のグループホームの名前は『白沢ホーム』。阿久比町白沢にあり、名鉄の巽ヶ丘駅から徒歩で5分ほどの距離に所在しています。2階建ての元社員寮であった建物をリフォームしたアパート形式（共同住宅）のグループホームで、定員7名のところ現在は4名の方たちが入居しています。それぞれの居室にトイレとお風呂・ミニキッチン等が設置されていて、より一人暮らしに近い生活を送ることができますが、今のところ食事は1階にある食堂兼談話室で皆さん食べられています。

もう一つのグループホーム『川口ホーム』は、ひかりのさとに隣接する相生の丘の一角にある築1年のまだ新しいお家をお借りしてホームにしました。一戸建ての住宅ですが、家主さんのご厚意で広々とした造りとなっていて居住環境はとてもよく、法人内他事業所にも徒歩数分で行ける距離に所在しているので、緊急時等に協力体制がとりやすいという安心感もあります。こちらのホームは定員5名。転居した当初は2名の居住者でスタートしましたが、近いうちに入居を予定している方も控えておられます。

どちらのホームも転居の手続きや家電品等の移設・新設でかなりバタついた引っ越しとなり、様々な方にご心配やご迷惑をかけた上に入居者の皆さんにも一時不安な気持ちを抱かせてしま

いましたが、徐々に落ち着かれてうれしそうな表情が増え、しっかり必要な事を伝えてくださるとする姿勢が随所にみられるようになりました。自から選んだ新生活スタートへの思い入れは、それぞれしっかりと持っておられていい感じです。

今回は、6名の方の大移動でした。ご本人たちにも協力してもらいながらではありますが、ほぼ居住サポートのスタッフのみで引っ越しを行いました。通常の業務を進めながらの引っ越しはやはり少し無理が生まれました。部分的には専門の業者さんの力も借りたほうがよかったという反省がある反面、引っ越しを通じて一人一人の利用者さんにより深くかかわることができ、新たな気づきや発見があったことも確かで、今後の支援に生かせるのではと考えています。

関わったみなさん、本当にお疲れ様でした。住処を変えることは不安も伴い大変なことですが、気持ちを切り替えて生活をリセットできる貴重な機会であったと思います。

それぞれの方が、新しい地域でより良くその人らしい暮らしを根付かせて行かれることを期待して、これからもサポートして行きます。

(多田)

既に生活感漂う川口ホームのLDK



イエローの外壁が特徴の白沢ホーム（南面）



らいふ 直接支援

新年度がスタートしました。らいふ直接支援事業の新年度の大きな変化のひとつ目は、この春に大学を卒業したばかりの新人スタッフ、男女1名ずつが加わったことです。現在、日々先輩スタッフのレクチャーを受けながら、頑張っています。

もうひとつ大きな変化として、らいふ直接支援事業で準備を進めてきました放課後等デイサービスが、4月よりスタートしたことがあります。この放課後等デイサービスでは、子ども同士、集団の中で様々な経験を積む中で、仲間づくり・人間関係を円滑にするための力や、就労する意欲を身につけてもらえるような場所にできたらと考えています。

平日のご利用は、基本的に各人週1回の曜日固定で利用していただいておりますが、土曜日はテーマ設定の特別プログラムの中から参加したいものを選んでいただくというサービス内容となります。送迎は、現在半田特別支援学校のお迎えのみ実施しているため、他校の児童・生徒さんには親御さんによる送迎をお願いしているという現状ながら、多くの方々からご利用希望をいただいたのでとてもありがたく思っています。

この新規事業が、障がいのあるお子さんの将来働くための準備ができる場所となるとともに、放課後の仲間づくりの場所が少ないという地域の状況を少しでも改善していく一翼を担えればと考えています。

また、この新規事業に魅力を感じる人が新たに支援者として関わって下さり、延いてはらいふの他事業に関わる支援者の垣根も広げていくことができるとも考えています。

冒頭で紹介しました新人スタッフ2名のうちのひとり、学生時代から、らいふで活動しており、らいふで仕事をすることが夢だったそうです。また、もうひとり、らいふの仕事をしてみて、らいふに配属されて良かったと思ってくれています。新人の2名が感じているレスパイト、ホームヘルプ、日中一時支援などの支援の魅力と新しく加わった放課後等デイサービスの魅力を多くの方に伝えることができれば、さらに地域ニーズに応え得る事業展開が可能となる人材の発掘に繋がるのではないかと期待しています。

皆さんのお知り合いで地域生活支援に興味を持たれる方がお見えでしたら、是非らいふ直接支援事業をご紹介ください。

今年度もどうぞよろしく願いいたします。

(長尾)

放課後等デイサービス活動場所 そよ風



新人紹介

廣瀬未来です。

らいふでバイトをしていた頃、いつも楽しそうに仕事をしている姿や的確なアドバイスをくださるスタッフさん達にあこがれて、福祉の仕事をしたくなりました。私も私の姿を見て「福祉の仕事っていいな」と思ってもらえるように働きたいです。



袴田純平です。

私は大学の時にお笑いをやっていました。大学時代に「笑顔」っていいなと心から思いました。仕事でも利用者さま、スタッフのみんなの笑顔が多い職場を目指して働いていきたいです。



◇運動クラブ ふいっと◇

新年度がスタートし、早1ヶ月が過ぎようとしています。皆様いかがおすごでしょうか？

平成27年度のふいっとは、矢野と新人の袴田が担当させていただきます。よろしく願いいたします。

新体制になって初めてのふいっとの活動は4月2日（土）に実施しました。例年4月の活動は、ふいっとの活動場所である知多市民体育館周辺の花見に出かけます。

週間天気予報では雨の予報でしたが、当日は見事に快晴でした。桜の木を見上げたり、散っている花びらを追いかけたりするメンバーさんの姿にとっても癒されました。いつもと変わらないメンバーさんの笑顔と、多くのボランティアさんの協力により、無事に終わられほっとしています。

毎月日本福祉大学のどんぐりと言うサークルから多くの学生さんに参加していただいているのと、昨年度は定期的に参加していただけるボランティアさんが多く、とても嬉しく思います。

今年度は新たな学生サークルにも声をかけ、いろいろな方と楽しい活動を作っていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

（矢野）

今後6月以降のふいっとの活動日をお伝えします。



☆平成27年度活動日☆

1	6月6日	第一土曜日
2	7月4日	第一土曜日
3	9月5日	第一土曜日
4	10月3日	第一土曜日
5	11月7日	第一土曜日
6	12月12日	第二土曜日
7	2月6日	第一土曜日
8	3月5日	第一土曜日

☆昨年度のふいっと活動状況をご報告させていただきます☆

活動月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	2月	3月	合計
メンバー	11	13	12	12	9	15	14	11	14	10	121
ボランティア	11	18	12	17	15	16	13	18	14	12	146

☆お知らせ☆

ボランティアさんを随時募集しています。知的障がいのある仲間たちと一緒に体を動かして楽しみませんか？リズム体操や、パラバルーンなどみんなで楽しめるプログラムになっています。

また年に1～2回お出かけのプログラムを予定します。

連絡先 TEL : 0562 - 34 - 6293

E-mail : life-neco@aikouen.jp

（ふいっと担当：矢野、袴田）

職員募集

共に働く仲間を求めています！

詳しくはホームページをご確認ください

<http://www.aikouen.jp/>